

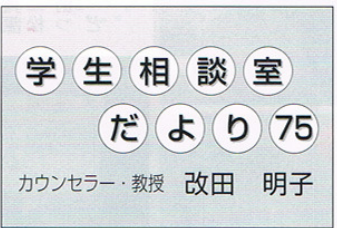
学生相談室は今年で開設二十年を迎えます。この間、いろいろな学生さんとの出会いがありました。また、親御さんとの協力関係も思い出深く、いつも親御さんの我が子を思う気持ちのあつさが伝わってくるものでした。

親御さんとの相談の中では、お子さんの暮らしぶりをみて歯がゆい気持ちになったり、お子さんとの関係にいらだったりする様子をよくお聴きします。本当に、お子さんの行き詰まった気持ちに共鳴して、心を痛めている様子が伝わってきます。

たとえば、不安が強く、学校に行く前から緊張感でいっぱいになり、学校に行くことを諦めてしまうような場合。行ってみることもなく諦めてしまうのは、許せないと言う気持ちになるのも当然のことのように思います。また、要領よく立ち回れずに、失敗を繰り返してしまふような場合など。大人の目から見ると、情けなくなくて、感情的な言葉が口をついて出ることもあるのではないでしょ

うか。

もちろん、そのような心からの言葉によって親御さんの気持ちが伝わって、新しい展開が生まれることもあるでしょう。ただし、そのような言葉の力は、繰り返すほどにその好ましい効果を失ってしまい、「棘に釘」状態になってしまふもののようなのです。



むしろ、感情的になつたときは、思わず出た売り言葉に買ひ言葉で、落ち着いて考えれば言わなくて済んだような強い言葉を使つてしまい、さらに葛藤を深めてしまふこともあるようです。感情と感情のぶつかり合いへの処方箋は、気分転換

して落ち着くことです。場所を変え、話をいったん打ち切るという方法はいかがでしょうか。

親子き仲にも礼儀あり。未熟さは自分自身でも身にしてみているもの。大人としての自信は、身近な大人から大人として対応されることを通じて芽生えてくるものなのかもしれません。